

常任委員会活動 上半期振り返りシート

委員会名：総務地域連携デジタル社会推進常任委員会

○委員会審議の活性化の視点

- ・執行部の所管事項等についてしっかりと議論を行い、審議することができた。

○年間活動計画について・重点調査項目

- ・「スポーツの推進」については、「三重とこわか国体・三重とこわか大会」は中止となったものの、これからのスポーツの振興・競技力向上に対して多くの委員からさまざまな意見があり、今後も委員会としてしっかり議論を行っていく必要がある。
- ・「社会全体のDXの推進」については、まだまだ調査が必要だと思っており、今後可能であれば県外調査などを実施し、委員会での議論を深めていきたい。

・県内外調査

- ・県内調査は、コロナ禍ではあったが、きちんと対策を講じ、有意義な調査を行うことができた。

7月28日 三重交通G スポーツの杜 鈴鹿（県営スポーツ施設の整備状況）
桑名市議会（DXの推進に関する取組）

8月5日 紀北町議会（公共交通空白地域の解消に向けた取組）
東紀州地域振興公社（東紀州地域での観光振興の取組）

○その他

常任委員会活動 上半期振り返りシート

委員会名：戦略企画雇用経済常任委員会

○委員会審議の活性化の視点

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中小企業・小規模企業への資金繰り支援について、県当局に意見するとともに、委員長報告を行った。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大状況により、観光振興策などの県の施策が大きく左右される中、委員会でその都度しっかりと議論し、審議することができた。

○年間活動計画について

・重点調査項目

- ・コロナ禍で緊急事態宣言が出される中、上半期は、中小企業・小規模企業への支援という部分に特化し、しっかりと調査することができた。下半期はコロナの収束を見据えた、今後に向けた対策についても議論していきたい。
- ・「県立大学の設置について」と「働き方改革の推進について」に関しては、上半期あまり議論できていないので、下半期はしっかりと議論をしていく必要がある。

・県内外調査

- ・県内調査では、鳥羽市観光協会を訪れ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた観光業の現状について現場で調査を行い、その後の委員会での議論に大いに生かすことができた。
- ・総合計画とSDGsとの整合性の観点については、いなべ市役所を訪れ、市町のSDGsの取り組みについて調査することができたので、今後の議論に生かしていきたい。
- ・県外調査については、新型コロナウイルス感染症の影響で計画通り実施できず延期となった。下半期にしっかりと調査を行ってきたい。

○その他

常任委員会活動 上半期振り返りシート

委員会名：環境生活農林水産常任委員会

○委員会審議の活性化の視点

- ・上半期は、活発で熱心な議論が行われ知識が深まった。

○年間活動計画について

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、委員会活動が難しい部分があった。

・重点調査項目

・県内外調査

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、委員会活動が難しいなか、県内調査を行い、さまざまな課題や問題点等をしっかり整理できた。

○その他

- ・新型コロナウイルス感染拡大の第4波・第5波の影響で県外調査が出来なかったが、参考人招致等を今後必要に応じて行い、議論を深めていきたい。

常任委員会活動 上半期振り返りシート

委員会名：医療保健子ども福祉病院常任委員会

○委員会審議の活性化の視点

○年間活動計画について

・重点調査項目

- ・重点調査項目（1）新型コロナウイルス感染症の拡大防止と医療を含めた地域社会への影響についての調査が中心になっており、下半期は他の重点調査項目にも力を入れたい。
- ・重点調査項目（3）障がい者スポーツの推進については、三重とわか大会が中止になったことで、当事者や関わった方々をどう支えていくか大きな課題であるので、現場の声を聞くことも必要ではないか。

・県内外調査

- ・津保健所の調査では、新型コロナウイルス感染症拡大防止等への対応で保健所業務が逼迫している状況について、所長から生の声を聞かせていただくことができた。

○その他

常任委員会活動 上半期振り返りシート

委員会名： 防災県土整備企業常任委員会

○委員会審議の活性化の視点

○年間活動計画について

・重点調査項目

- ・重点調査項目「(1) 新型コロナウイルス感染症等に係る危機管理について」は、全員協議会で説明があったが、委員会においても「三重県指針」を所管する防災対策部から、大きなバージョン変更等の機会を捉えて可能な範囲で説明を受け、より詳細な審議をすべきであったと考えている。

・県内外調査

- ・県内調査においては、建設産業のICT化の実態も見ることができた。「防災・減災対策について」という重点調査項目にも沿った適切な調査先を選定し、有意義な調査ができた。
- ・2回目の県内調査では、スケジュールが過密であった。テーマは時宜を得ていたが、受け身の調査ではなく、体験型の調査にするなど、調査方法にはひと工夫が必要であったと考える。

○その他

常任委員会活動 上半期振り返りシート

委員会名：教育警察常任委員会

○委員会審議の活性化の視点

- ・活発な意見交換の結果、成果レポートへの追記につながった。

○年間活動計画について

- ・県外調査については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年間活動計画どおりに実施することはできなかったが、今後改めて計画していきたい。

・重点調査項目

- ・サイバー犯罪対策、交通安全対策など、設定した重点調査項目に沿った議論ができています。下半期は高等学校の活性化などの調査を進めたい。

・県内外調査

- ・県内調査については充実した調査ができた。現地でさまざまな意見が出たが、調査終了後に改めて委員間で協議する場があれば、より深い議論ができるのではないかと。
- ・調査先の対応について、しっかりと対応していただけることはありがたいことではあるが、少し仰々しいところがあった。

○その他

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で調査等ができなかった分、下半期には参考人制度等も活用したい。

常任委員会活動 上半期振り返りシート

委員会名：予算決算常任委員会

○委員会審議の活性化の視点

- ・令和3年版成果レポートの調査をふまえ、「新型コロナウイルス感染症への対応」および「財政運営」に関して知事に申し入れを行い、実りのあるものとなった。
- ・新型コロナウイルス感染症関連の補正予算の審議において、真摯に議論を行い、議会としての意見をしっかりと執行部に伝えることができた。
- ・執行部とのやり取りの中で、委員会から地域の実情に応じた意見をしっかりと伝えたことで、執行部の取り組みに反映させることができた。

○年間活動計画について

- ・知事選挙の影響で議事日程が変則的となり限られた日程の中ではあったが、補正予算等を適切に審議することができた。
なお、今後4年ごとに知事選挙の影響が生じる可能性があることをふまえた委員会運営を想定する必要がある。

・重点調査項目

- ・特になし

・県内外調査

- ・特になし

○その他

- ・特になし

県内調査（総務地域連携デジタル社会推進常任委員会関係）について

○ 県内調査

(1) 令和3年7月28日（水）

①三重交通G スポーツの杜 鈴鹿（鈴鹿市）

県営スポーツ施設の整備状況やスポーツの推進に関する取組などについて調査を行いました。

②桑名市議会（桑名市）

桑名市では、令和3年2月にデジタルファースト宣言を行い、積極的にデジタル化の推進に取り組んでいくこととしており、これまでの取組状況やDXを推進していくにあたっての今後の課題等について調査を行いました。

また、桑名市が行う独自の予算編成として取り組む「みんなで“変わる”“変える”予算」、「がんばり“見える化”予算」等について調査を行いました。

(2) 令和3年8月5日（木）

①紀北町議会（紀北町）

公共交通空白地域の解消に向けた取組や次世代モビリティ等を活用したAI配車システムの導入による実証実験の成果、今後の課題等について調査を行いました。

②一般社団法人東紀州地域振興公社（熊野市）

熊野古道をはじめとした東紀州地域での観光振興について、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた受入環境整備や体験教育旅行を通じた誘客の取組について調査を行いました。

県内調査（戦略企画雇用経済常任委員会関係）について

○ 県内調査

(1) 令和3年7月28日（水）

①いなべ市役所、にぎわいの森（いなべ市）

令和2年度に「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定された、鈴鹿山脈の麓の広大な森林放棄地を整備したグリーンインフラ商業施設「にぎわいの森」を中心としたSDGsだからこそできる自然や環境に良くカジュアルなまちづくりの取組について調査を行いました。

②公益財団法人国際環境技術移転センター（四日市市）

国、地方自治体、産業界、学界等の広範な支援・協力を得て実施している持続可能な社会を目指した取組について調査を行いました。

(2) 令和3年8月4日（水）

①一般社団法人鳥羽市観光協会（鳥羽市）

新型コロナウイルス感染症により影響を受けた観光業の現状、課題等について宿泊事業者、観光施設、土産物店の方々と意見交換を行いました。

②明和町役場（明和町）

DMO法人である一般社団法人明和観光商社と協働して取り組んでいる観光来訪者の増加のみならず、特産品の販路拡大・新商品開発や町内の農家や空き家を活用した農泊・民泊による宿泊施設不足の解消等、観光・地域経済の振興につなげていく取組について調査を行いました。

県内調査（環境生活農林水産常任委員会関係）について

○ 県内調査

（1）令和3年7月28日（水）

① 中央家畜保健衛生所（津市）

豚熱の感染の疑いがあった際の検査体制や野生イノシシの感染状況等について、調査を行い、検査施設を見学しました。

② ヴィソン多気株式会社（多気町）

今年3月にオープンし、県産材を活用した建築物や農業マルシェをはじめとした農林水産業の地産地消に対する取組等について調査を行い、施設を見学しました。

③ 株式会社大栄工業三谷工場（伊賀市）

二酸化炭素の排出を抑制するバイオガスプラントをはじめとする環境負荷低減の取組等について調査を行い、バイオガスによる発電施設等を見学しました。

（2）令和3年8月4日（水）

① 三重県水産研究所鈴鹿水産研究室（鈴鹿市）

現在の漁場環境の課題分析や、環境耐性のある品種開発などの研究状況等について調査を行い、研究施設等を見学しました。

② パラミタミュージアム（菰野町）

文化芸術施設における新型コロナウイルス感染症予防のための来場者への対策や、展示会等の開催状況の現状と今後の課題等について調査を行い、施設内を見学しました。

③ 有限会社松葉ピッグファーム（いなべ市）

養豚場における豚熱の感染防止対策や、豚熱感染発生後の取組、豚肉の消費拡大のための施策等について調査を行いました。

県内調査（医療保健子ども福祉病院常任委員会関係）について

○ 県内調査

(1) 令和3年7月29日（木）

① 名張市議会（名張市）

家族の介護等を行っている家族介護者、とりわけ大人が担うような介護等を行っている 18歳未満の“ヤングケアラー”の実態が着目されていることから、今年度制定された「名張市ケアラー支援の推進に関する条例」について調査を行いました。

(2) 令和3年8月5日（木）

② 津保健所（津市）

新型コロナウイルス感染症にかかる受診・相談センターや検査体制、クラスター発生時の対応など、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の最前線に当たる県保健所について、感染拡大以降の現状や課題等について調査を行いました。

③ いなべ市議会（いなべ市）

県では年度内にひきこもり支援に特化した計画を策定する予定であることから、いなべ市が実施しているひきこもり支援の取組や、今年度設置された「いなべ市ひきこもり支援センター「瑠璃庵」」について調査を行いました。

県内調査（防災県土整備企業常任委員会関係）について

○ 県内調査

(1) 令和3年7月30日（金）

①西町地区急傾斜地崩壊対策工事（紀北町）

常任委員会で説明のあった、本県の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策 5年後の達成目標」中、道路分野での対策である「法面・盛土の土砂災害防止対策」対象工事について調査を行いました。

②紀宝町役場（紀宝町）

紀伊半島大水害から10年間の復興について、全国の自治体に先駆けて導入された紀宝町タイムラインの取組を中心に調査を行いました。また、新宮紀宝道路の進捗状況についても調査を行いました。

③里地谷砂防堰堤工事（紀宝町）

常任委員会で説明のあった、本県の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策 5年後の達成目標」中、流域分野での対策である「砂防堰堤等による避難所・要配慮者利用施設の保全」対象工事についての調査を行いました。

(2) 令和3年8月4日（水）

①南伊勢高等学校南勢校舎（南伊勢町）

平成30年度みえの防災大賞、令和元年度防災まちづくり大賞の受賞につながった取組であり、県内で最も過疎化・少子高齢化が進む南伊勢町の県立高校で、東日本大震災を契機に続けられている郷土を愛し、災害時に主体的に行動できる人材育成の取組について調査を行いました。

②国道23号中勢バイパス（鈴鹿市）

令和5年に全線開通する見通しが公表された国道23号中勢バイパスについて、現在施工中の箇所について調査するとともに、開通による効果や、道路交通網整備の大局的な視点からも調査を行いました。

③津地方气象台（津市）

気象庁から新たに発表されることになった「顕著な大雨に関する情報」や「南海トラフ地震に関連する情報」などの情報について、また、防災気象情報を適切な避難行動につなげられるような取組について調査しました。

県内調査（教育警察常任委員会関係）について

○ 県内調査

令和3年8月4日（水）～5日（木）（1泊2日）

① 松阪市立飯高中学校（松阪市）

平成26年から1人に1台のタブレット端末を導入し、タブレット端末を効果的に活用した授業や地域学習など様々な教育活動に活用している同校の取組について調査を行いました。

② 三重県立松阪あゆみ特別支援学校（松阪市）

松阪市・多気町・明和町・大台町の1市3町を校区として、平成30年4月に開校した同校について、小学部・中学部・高等部を通じたキャリア教育を中心に調査を行い、学校施設の見学を行いました。

③ 尾鷲警察署（尾鷲市）

昭和45年の建設から51年が経過し老朽化が顕著な尾鷲警察署庁舎について、その現状や今後の改修計画等について調査を行い、庁舎施設の見学を行いました。

④ 三重県立飯野高等学校（鈴鹿市）

英語コミュニケーション科や応用デザイン科といったユニークな学科を擁する同校について、外国にルーツのある生徒への学習支援等の取組を中心に調査を行い、応用デザイン科の生徒活動や学校施設の見学を行いました。

⑤ 津市立明小学校（津市）

令和3年度に津市のICT教育の研究指定校の一つに選定され、タブレット端末やプログラミング教材等を活用した教育の実践を進めている同校の取組について調査を行いました。

県内調査（花や木で健やかな三重をつくる条例策定調査特別委員会）について

○ 県内調査

令和3年7月14日（水）

①熊野市役所（熊野市）

熊野市が市民の方と協働して取り組まれている「花いっぱい運動」及び市民の方が取り組まれている「オープンガーデン」について調査しました。

また、熊野市総合育苗センター「アグリス」を訪問し、花きの育苗等について調査しました。

②国土交通省中部地方整備局紀勢国道事務所熊野維持出張所（熊野市）

国土交通省が地元のボランティアの方と連携して取り組まれている国道42号沿線の植栽帯の花植え等について調査しました。

委員会の県内外調査について

【令和3年10月29日代表者会議改正】

(県内調査)

常任委員会

原則として日帰り調査を2回程度実施。

特別委員会

日帰りの調査を適宜実施することができる。

(県外調査)

常任委員会

2泊3日以内の行程で1回実施することができる。

特別委員会

1泊2日以内の行程で1回実施することができる。

議会運営委員会

2泊3日以内の行程で1回実施することができる。

ただし、新型コロナウイルス感染症その他重大な感染症のまん延を防止するために必要があるときや大規模な災害その他の緊急事態が発生するなど現地の調査が困難となった場合は、各委員会の判断で、適宜オンラインを活用したリモート形式で実施することができる。

※ 下線部分が R3. 10. 29 付け改正 (追記) 部分

